

第22回学習会を、平成22年7月2日(金)19:00～20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

## 第22回目の内容

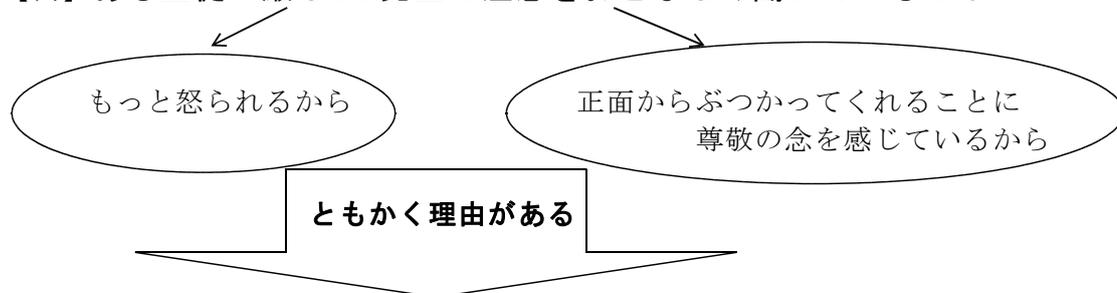
講師 重枝一郎先生(福岡市教育センター主任指導主事)

- 1 教師の勢力資源
- 2 実践ビデオ紹介
- 3 エクササイズの体験活動



## ○教師の勢力資源

【例】ある生徒が厳しいA先生の注意をおとなしく聞いているのは



生徒ひとりひとりで理由が違う。また、教師ひとりひとりに対しても違う

生徒たちは教師に何らかの「勢力」を感じている。

実はその「勢力」に従っている。

(あくまで生徒が感じている勢力)

※「勢力」：他を抑える力。勢いと力。

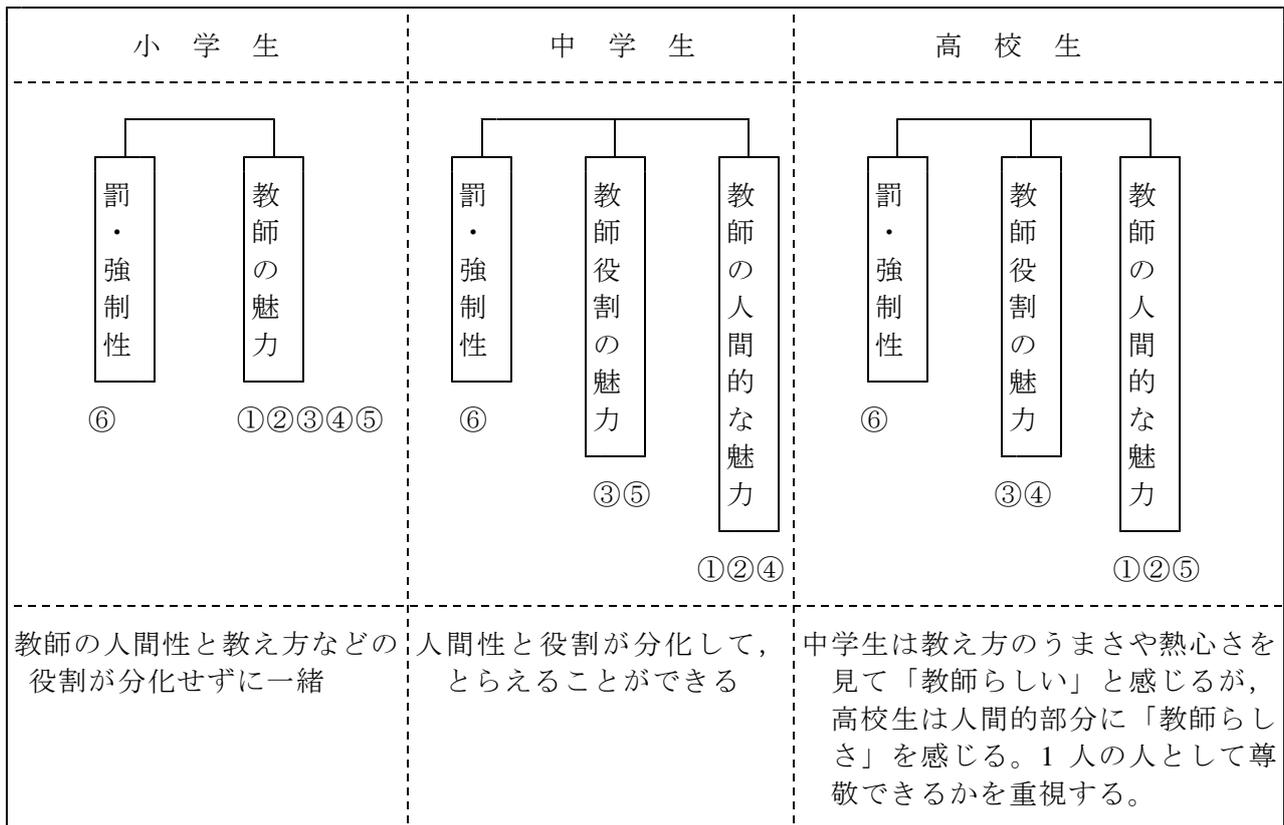


## 教師の勢力資源

## 6つの勢力資源

- ①準拠性 : 好意, 尊敬, 信頼, あこがれ
- ②親近・受容性 : 親近感, 被受容感
- ③熟練性 : 専門性に基づく教え方の上手さ, 熱心さ
- ④明朗性 : 性格上の明るさ, 楽しい気分になることに基づく
- ⑤正当性 : 「先生」という役割や社会的地位に基づく
- ⑥罰・強制性 : 従わないと罰せられたり成績にひびくので, それを避けようとすることに基づく

昔は⑤⑥である程度 OK。今は違う。生徒は6つの勢力資源を独立したものとしてではなく、統合された形で認識している。



☆ 普段から〈人間的魅力〉〈役割の魅力〉さらに〈罰・強制性〉の勢力も感じられない教師は賞められる。ただ、〈罰・強制性〉の勢力だけで賞められないようにしていたら、それは生徒が離れていく。

しかし、〈罰・強制性〉は当然ある。大事なのは、その勢力資源を感じさせない、それを背景にした対応が少ないということ。

叱らない教師の中にも賞められない人がいる。

それは普段から〈人間的魅力〉と〈役割の魅力〉の勢力を生徒が強く感じているから。

もし、〈罰・強制性〉がうまくいっている(?) と思っ

ている教師は短絡的になり、学ばない教師になり、そのうち、もともとあった〈人間的魅力〉〈役割の魅力〉の資源を低下させることになる。



**解説**

**児童・生徒が感じている「教師の勢力資源」**

例えば、子どもが教師から怒られているときに、子どもが黙っているのには理由があります。その理由は、子どもひとりひとりによっても違うし、教師ひとりひとりに対しても違っています。ある場合は、その先生に尊敬の念を感じているからであり、ある場合は、本心では素直に話は聞いていなくても、とりあえず、もっと怒られたくないからという理由で、表面的に黙っているなどです。いくら、自分はこんな教師ですと言っても、それは自分が言っているだけで、それよりも、子どもがどう感じているのか、それを知る勇気が必要です。

教師は何らかの勢力をもっています。何もなければ賞められます。小・中・高校生が教師に対して、どのような勢力資源を感じているのかを研究した結果、次のようなことがわかりました。

## 小学生の場合

小学生は、その先生が好きかどうか最も重要な勢力資源になっているようです。どんなに教え方がうまくかつ熱心でも、親しみや明るさ、悩みなどを受け入れてくれる対応や雰囲気がないと、その教師に対して魅力を感じてくれず、授業にもものってこないという面があります。つまり、〈教師の魅力〉の勢力資源をもつ教師を、教師らしい教師と感じています。発達の幼い分、小学生は教師に、より人間的な部分を求めているといえます。

## 中学生の場合

小学生が〈教師の魅力〉ととらえていた視点も、中学生になると人間的な魅力と、教師としての役割に対する魅力を分化してとらえることができます。つまり中学生は〈教師の人間的魅力〉と〈教師役割の魅力〉の両方の勢力資源を教師に強く感じているとき、その教師の指導に素直に進んで従おうとします。どちらか一方の場合は、中学生は教師を選択するようになります。例えば、友人関係の相談はA先生、勉強の相談はB先生という具合です。しかし、その場合は全面的に信頼しているわけではないので、その部分の勢力を感じられなくなると、その教師そのものを否定するようになります。また、中学生は親に対して反抗的になる時期です。教師はその延長線上にあるので、教師に反抗的な態度をとることがあります。自分に悪い面があることを感じていても、教師の高圧的な言い方に反発することがありますが、普段から〈教師の人間的魅力〉と〈教師役割の魅力〉を感じている教師であれば、生徒は納得します。しかし、〈罰・強制性〉の勢力資源を強く感じている教師には、反抗的な態度をあからさまにとったり、間接的に反抗する場合があります。

ただ、最も中学生が嫌う教師の対応は、対決を避け、生徒の批判の矛先をかわそうとする教師の態度です。「叱るべき時に厳しく叱れない教師」というだけでなく、普段から何の勢力資源も感じていない教師に対して生徒は嘗めた態度をとります。

## 高校生の場合

高校生は、教師の6つの勢力資源を〈教師の人間的魅力〉〈教師役割の魅力〉〈罰・強制性〉の3つを統合して教師をとらえる傾向があることがわかりました。高校生が〈教師の人間的魅力〉と〈教師役割の魅力〉を教師に強く感じているとき、教師の指導を進んで受け入れようとしています。そして、〈罰・強制性〉を強く感じるとき、教師の指導に従ったとしても、それはしぶしぶそうしているにすぎないのです。

中学生と高校生は、教師をとらえる視点がかかなり似ていますが、決定的な違いがあります。中学生は教師の授業の教え方のうまさや熱心さをみて「教師らしい」と感じるのに対して、高校生は教師の人間的な部分に「教師らしさ」を感じます。1人の人間として尊敬できるか、親しみをもてるかということを、高校生は重要視します。つまり高校生では、〈教師の人間的魅力〉を強く感じさせることができるかどうか、とても重要になるのです。

## 学ばない教師＝短絡的になる＝「人間的魅力」「役割の魅力」を低下させる

小学校では「教室のカベ」、中学校では「教科のカベ」を取り払わないと、学校は変わりません。「教育は人なり」です。つまり、「人」で学校が変わるのです。しかし、1人の教師の力で変わるわけではありません。チームで、組織で、集団力でとらえることが大切です。そのためにも、物事を閉じて考えないようにします。「教室のカベ」「教科のカベ」を取り払って「学校を開く」こと、発想を柔軟にすること、そして、物事を関連付けて考えることを意識することが大切です。

この「風土会」で紹介しているエクササイズも、「授業におきかえて考えたら」「組織におきかえて考えたら」という発想が大事なのです。

また、教師は個人的に力量を上げるために、定期的に自分を見つめること、リフレクションすることが大切です。それをしない教師、つまり「学ばない教師」は、自ら自分の魅力を低下させているのです。

## コンセンサス（合意）を学ぶGWT「体育祭 HOW MUCH」

### 【ねらい】

- ・お互いの考えを出し合い、考えを練り上げて結論を出すことで、「合意」して協力することを学ぶ
- ・みんなで出した決定を納得して行動することで、本質的な協力体制つくる

### 【進め方】

- 1 自分が体育祭を通して何を学んだのかを考え、その意義や価値を価格で表す（30万、25万、15万、10万の5種類で、総額100万円まで）
- 2 自分の考えを（決めた価格の理由）などを班のメンバーに伝える
- 3 メンバーはお互いの意見のよさを認め合いながら、ひとつの意見に練り上げ、班のワークシートに書く
- 4 班で合意した意見を発表する
- 5 振り返り、まとめる

### 【ワークシート例】

体育祭で自分は、何に最も価値をおくのか、また、他の人と比べてどうなのかを考える

| 価値   | 価格(万円) |   | 価値     | 価格(万円) |   |
|------|--------|---|--------|--------|---|
|      | 自分     | 班 |        | 自分     | 班 |
| ①練習  |        |   | ⑨楽しさ   |        |   |
| ②団結  |        |   | ⑩気合い   |        |   |
| ③責任感 |        |   | ⑪努力    |        |   |
| ④勝利  |        |   | ⑫連帯感   |        |   |
| ⑤応援  |        |   | ⑬リーダー  |        |   |
| ⑥準備  |        |   | ⑭一生懸命  |        |   |
| ⑦思い出 |        |   | ⑮学級の結果 |        |   |
| ⑧友情  |        |   | ⑯個人の結果 |        |   |

☆自分の価格では（上段に「価値」、下段に「価格」を書き入れましょう）

|       |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |
|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ----- | + | ----- | + | ----- | + | ----- | + | ----- | = | 100万円 |
|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|

☆班の価格では（上段に「価値」、下段に「価格」を書き入れましょう）

|       |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |
|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ----- | + | ----- | + | ----- | + | ----- | + | ----- | = | 100万円 |
|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|

### ○コンセンサス（合意）実習とは

「学級目標をつくろう」「クラス・授業のルールをつくろう」などの活動では、生徒の合意を得られていないと、教師からの強制になってしまいます。どれが正解ということはないので、オープンエンドになりますが、生徒各自が自分の考えをことばで説明し、相手を説得して全員の合意を得るといった活動は、クラス全体で共通認識し、共通実践するために大事な活動です。そのコンセンサス実習に行事を絡めた取組が「体育祭 HOW MUCH」です。

このエクササイズは、体育祭の前によく行いますが、体育祭後に取り組みすることもできます。行事が終わって、燃え尽き症候群にならないための刺激になります。行事後の後味のよさを確認できる内容です。

今回のビデオの内容（重枝先生が授業をしている様子）を紹介した文章がありますので、その一部を次頁に載せています。読んでみて下さい。

## 授業風景「体育祭 HOW MUCH」

※授業は班形態で行われています。中学2年生対象の授業です。

「体育祭でみんなはたくさんを経験したと思いますが、そこは君たちの財産にしていかないといけない。“財産”という言葉をつかいましたけど、今日はこういうタイトルで（黒板に「体育祭 HOW MUCH」と板書）授業をします」

重枝先生が黒板を指しながら「体育祭？」子どもが「ハウ・マッチ」と答えています。

「ハウ・マッチって意味わかる？」子どもが「いくらですか」と答えます。「そう、いくらですか」「体育祭、タダですよ」と子どもから声があがります。楽しげな雰囲気です。

「そう、もちろんタダですよ。お金にする方がおかしいんですよ。だけどよ、財産としてはどうか、心の。今日は、実際に金額におきかえて、あなた達に“価値”というものを考えさせたいと思います」

「目をつぶってください。班長は後で忙しくなるので、まずは班長以外の人全員に発表してもらいます。体育祭で何を得ましたか。一言で言ってください。1分間考えよう」

子ども達は、真剣な表情で目をつぶっています。考えている雰囲気です。

「体育祭で何を得ましたか。いろんなことがあるね。この教室の中にも、いっぱい言葉がある。目を開けて見回してもかまわない。自分が体育祭で一番大切だったこととか、自分が気づいたこととか、そういうのを一言で今から発表します。あと30秒。目を開けてもいいよ。見回してもいいと言ったよ。その言葉はひとつ。文じゃない。ひとつ」目をつぶったままで考え込んでいる子どもがいます。静かに教室を見回している子どももいます。教室全体が、真剣に考えている学びのムードに包まれています。

「はい、やめ」「班長以外の人」子どもをあてて「立って発表しよう。そして座ります」

子ども、立って「思いやり」と答えます。重枝先生、黒板に板書「思いやり」

次の子ども「協力」と答えます。黒板に板書「協力」

更に次々と、「努力」「優勝」「団結」「友情」「楽しむ」などが発表されます。

重枝先生、「このクラスには、こういう言葉がいっぱいあるはず」と語ります。

「それでは前を向いて。さっき先生が、みんなすごいなあ～って言ったのは、実は、この『体育祭 HOW MUCH』のワークシートを先生つくってきました。こういう言葉を（黒板を指しながら）先生なりにいっぱい挙げました。けっこうみんなのと、かぶっているんです。しかしね、君らが考えたのと21年間中学校体育祭につきあっているからね。プラス3は自分の中学校の時の3年間ね。考えたときに、まだいろんなことがあると思う。このワークシートを見てもらったらわかると思う。これらの言葉で（黒板を指す）自分が最も価値をおいていることに関して、今から値段を付けてもらいます」ワークシート配布

「お金で買えない。これは当たり前のことです。これは本当に当たり前のことです。そこをまあ～ちょっとおいといて、意識をしっかりとつためにね。考えていきます。まず、ワークシートの右上に名前を書いたら、言葉を書き込んでください」

### 黒板の板書

私の価格では

団 結

+

30万

+

70万

= 100万円

30万

例えば団結、そして30万なら30万と書いて、この足し算が100万円になるようにします。

発表するときは、経験してというのを、まず最初の言葉にもってきてください。今回の体育祭を経験して、私は、こういう風に考えました。理由もつけてください。まとめて何を買ったかを最初に言ってもいいです。それは自分で考えて、みんなに伝わるような言い方をきちんとして下さい」

「さあ、〇〇君が準備ができたようです。班長さん以外はおもいきりボディリスして下さい。

〇〇君、起立。前に出てきて。〇〇君の話を聞こう。どうぞ」

子どもが発表します。「今回の体育祭を経験して僕は、楽しさと団結と勝利と思い出を買いま

した。理由は、楽しく団結して勝利すると、いい思い出になると思ったからです」

「はい、拍手」パチパチパチ……。「今回の体育祭を経験して私が買ったのは……」班長が次々に発表します。(途中、省略)

「はい、わかりました。さあ、今、発表してくれた班長さん達は、よく聞いとけよ。2番の『団結』、4番『勝利』、5番『応援』、7番『思い出』、8番『友情』、9番『楽しさ』、11番『努力』、12番『連帯感』、14番『一生懸命』を挙げていました。じゃあ、挙がっていないのは、1番の『練習』、1番の『練習』を買った人、手を挙げて」

1人、手が挙がります。「練習はいらないか？はい、おろして。3番『責任感』買った人、手を挙げて」。2人の手が挙がります。このように、次々と手を挙げさせます。

「16番、『個人の結果』を買った人？いなかったのは、『個人の結果』だけ。『個人の結果』というのは何かちょっとね。自分中心みたいな気がするんで、避けた人も多いと思います。6番の『準備』を買った理由を言ってもらいたい」

手を挙げた、1人の子どもがあてられました。「安かったから」笑い声がおきます。

「安かったから。それ、理由になると思いますよ。先生が今まで会った子どもの中で、〇〇のような子どもがクラスに必ず1人はいた。ゼロは今までなかった。君たちによく考えてもらいたいのは、みんなも準備したけど、毎時間毎時間、体育でグラウンドにラインが引いてあったり、マットとかああいう道具が出ていたり、体育の先生を中心に、毎朝やってたんだね。その準備がなければ、もしかしたら、いい練習ができなかったかもしれない。でね、準備というのは、ものすごく大切なんです。何をやるにも。体育祭前日準備って1日だけがんばって準備した人もいると思うけど、毎日、体育祭期間中、準備していた人もいる。体育委員の〇〇も、みんなよりも早く来て、準備している。これが何ていいのかな～というのは、心の片隅に思っておいてほしい。それと、やはり『練習』。たしかに『友情』とか『思い出』と言ったら、きれいに聞こえますよ。きれいな感じがします。『練習』と言ったら、何かちょっと、どろどろとした感じがする。でも、その『練習』って何ていいのか。自分が選んだ逆のことを知れ。逆から見ろ。これがいつも先生が言っている、そうしなさいと言ってるんじゃない。何で練習を選ばんとや。何で準備を選ばんとやと、怒っている訳じゃない。みんなに生き方として知ってほしいのに、『自己盲点』という言葉がある」

黒板に「自己盲点」と板書します。

「自分の知らない世界、考えつかない世界というのを、同時に考えていくということが、こういうこと。そしたらね、必ず成長できる。必ず、器の大きな人間になれる。いいか。今度は、グループで値段をつけなせ。班で班長さんを中心に。そして、グループで共通に、グループの買物物を成立させてください。5分間。用意、はじめ」

活発に話し合いが始まりました。

各班、板書で発表します。

「〇〇班から、準備・練習・団結・友情・思い出。班で選んで、先生の話も入っていたせいかもしれないけど、さっき出てなかった、準備と練習がここに出てきてるね」

黒板に書かれている準備、練習に印を入れます。

「やはり自己盲点という、ちょっとした素直さが、やっぱり成長かなと思いますね」「〇〇班、また練習、準備がでてきた」。黒板に印を入れます。

このように、各班ごとにコメントを入れながら、先生が紹介していきます。

「先生が思うに、友情と思い出ってものすごく大切と思う」黒板に書かれている、友情と思い出に線を引きます。

「やっぱりね、大人になってもね、やっぱりここなんよ。ものすごく大切。1回、けんかしたかもしれないし、言い合ったりしたかもしれないけど、一生懸命何かしたときには必ず思い出に残る。何か友情が、新しい友情が芽生える。今までのぬるま湯的な付き合いじゃなくてね。ちょっと刺激が入った友情。大人の友情っていうのかな。そういう世界が生まれる。先生が選んだのは……」黒板に板書しながら……。

「やっぱり練習を選びました。やっぱ、練習してなくて、何かうまくいって自分を勘違いすることが一番、人生で失敗しそうな可能性がある。何もしないで100点とれたとか、俺って天才、絶対、違おうが。絶対、練習がいると思いました」

「次に先生が選んだのは、全部20万で選んだんだけど、応援」黒板に書く。「別に先生と一緒にじゃなくて、ぜんぜん構わない。自己盲点。先生はみんなのが、先生の盲点になっている。ものすごい勉強になりよう。応援というのは、実は高校の体育祭を経験しているから。先生の高校の体育祭。まあ、どこの高校でもすごいんだけど、本当に練習、特に応援練習の繰り返しなんよ。夏休みも全部出校。学校に行くわけ。これでもか、これでもかと、まだ練習すれば完成度が高くなるという風にやる。だから応援というのは自分の心の中にすごくある」次に、「準備」と黒板に書きます。「それと、やはり先生になって気づいたことなんだけどね。これは中学生くらいの頃は何とも思わなかったんだけど、体育の先生がラインを引いてても、何にも感じなかった。それが体育の先生の仕事だろうくらいにしか思ってなかった。先生になってわかったね。これはものすごく大変な仕事でさ。朝から、石灰まみれになって。この準備だけ、朝からいろんな先生が掃除しているよね。校長先生もだけど。学校まわりを掃除しているよね。それも、みんなが学校に来る前の準備だよな。いろんなところに準備がある。これは先生になって気づいたこと」

次に「気合」と言いながら、黒板に書きます。「気合ってという言葉ひとつでね、何か前向きになれるんです。何かうまくいくような気になるんよ。気合い入れようぜって。実は今日、腰が痛くてたまらん。なぜでしょう？おとといナイターで社会人サッカーしよった。昨日ね、先生達、〇〇中と職員バレーの試合でぼろ負けしました。まじめに二日間運動したら、こんなになるっちゃねと完全おじさんやねえと悲しい思いです。昨日もね、〇〇中にうまい先生がおるったい。バレー専門の。どんどんサーブが入るったい。変化球みたいなのが。それを、校長先生とか飛びつきようったい。〇〇中は盛り上がるけど、こっちは暗〜く少しなりようわけよ。そんなときに必ず出てくる言葉が、気合よ。『気合い入れていこうぜ、もう一回』って」「誰が言ったんですか？」子どもから質問が出ます。「みんな言ったよ。先生達。気合しかなかったわけよ。向こうの方が技術が上やけん。気合。まあ、精一杯して負けましたけど、気合という言葉はね、前向きになれる」

「そして、最後に先生は一生懸命」と言いながら黒板に書く。「この言葉を選びました。オール20万円で100万円になりました」

「こんな風に、どれを選んでも、何かあるよね。何かいいことがあるんです。だけど、自分なりの何かというのがね。やはり自分の心の中にないと、先生はダメだと思います。絶対ダメだと思います。何気なく何かをしたって何の成長にもならない。君らもスポーツしたり勉強したりする。恋愛したりする。この中の言葉の何をね、自分の心の中に描いてやっていくかということとはとても大切なことです。それでは、気づいたこと、感じたこと、学んだことをワークシートに書きましょう」



【コミュニケーション力、コンセンサス実習】

『伝えたつもり？（話し上手・聞き上手）』

《ねらい》 ○ コミュニケーション能力の育成（自分の考えを相手に正確に伝え、相手と共通理解すること）

- ・ 自分の頭で考えていることを言葉にして表す場合、そのことが相手にそのまま正確に伝わっているとは限らない。
- ・ 人の意見を聞くとき、その受け取る意味合いが、自分の思いこみによって左右されることがある。

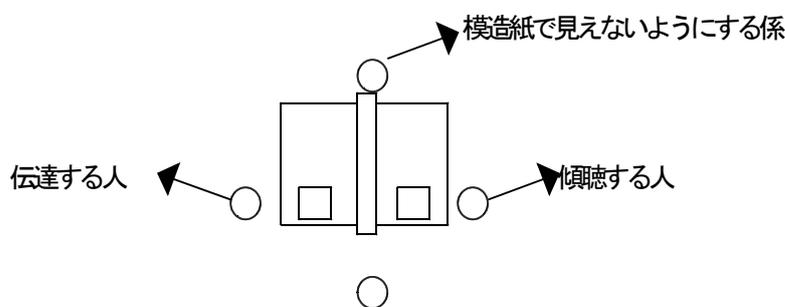
《準備》

- ・ A4の用紙 ・ 課題シート（2種類） ・ 模造紙 ・ 筆記用具（各自） ・ ふりかえりシート

《すすめ方》

2人1組で服装チェック。（「ありがとうございました」）  
ルールとねらいなどの説明を聴く。（教師には敬語で話す）

- 1) 4人グループをつくる。（机の配置はカンニングできないようにする。）



- 2) グループのリーダーを決めておく。（「〇〇班です。（プリント配布）ありがとうございます。」）
- 3) まずは、最初のペアが演習をする。時間制限をし、時間がきたら終わる。（「鉛筆をおいて、手は膝の上」というルールを徹底する。）模造紙ペアは決してしゃべってはならない。また、表情に出してもいけない。
- 4) 模造紙を外して、答え合わせをする。4人で話し合い。うまくいかなかったのは、何が原因なのか。グループのリーダーに話し合ったことを発表させる。（ここでは、教師はコメントを出さない）
- 5) ペアを交代する。一時間で答え合わせ
- 6) 話し合い→伝達する人のポイントと聴く人のポイントをまとめさせる。  
ふりかえり→発表させる。（「私たちの班は伝える方のポイントを○つ、聴く方のポイントを○つにまとめました。・・・  
・以上で〇〇班の発表を終わります。」）
- 7) 発表が終わったら、授業と関連づけてまとめていく。  
【伝達側】①目標を共有する ②相手の立場に立った表現を心がける（アサーティブ）  
③具体的な伝え方 ④段階的に確認しながらすすめていく。  
【聴く側】①わかったつもりをしない、確認②都合よく聴かない③復唱④日頃からの仲良しさ

※よい授業（自分の考えを持つ、自分の考えを説明する、人の考えをよむ、お互い認め合う、学び合う喜びを感じる）には、コミュニケーション力が大切。

## 《体験活動の解説》

### 「伝えたつもり？」(コミュニケーション力、コンセンサス実習)

「風土会」に参加した先生方は、まず教室に入ったら最初に、黒板の板書をノートに写しはじめます。金曜日の夜 19:00 から行われる風土会には、忙しい学校現場からかけつけるので、時間に間に合わない先生方もたくさんいらっしゃいます。そのような先生方は、風土会が終わってから教室に残って、黒板の板書を熱心に写しておられます。その姿に、いつもいつも密かに感動しています。

「風土会」も 3 年目になり、参加される先生方も、最初の頃からずっと参加していただいている顔見知りの先生から、「初参加です」という先生方、さらに、中学校だけではなく小学校の先生、高校の先生、特別支援学校の先生、福岡市以外の先生等々、広がりを見せています。そのことにも、深く感動しています。

そして、何よりこの「体験活動」の時間の心地よさ!! 参加されている先生方の雰囲気の良いやさしさ、さわやかさ、笑顔・笑顔、いつも大きなエネルギー(元気)をいただいています。

さらに、毎回書いていただいている「コミュニケーション・カード」

重枝先生も、風土会終了後に必ず熱心に読んでいます!! 先生方の反応や反響や満足度を感じ取り、そこからエネルギーをいただき、反省もしながら、「風土会」を続けています。

一ヶ月に 1 回 1 時間という「風土会」も 2 2 回を重ね、最初には考えもしなかった「キセキ」が起きています。

「風土会ホームページ」ができ、「Teacher's Teacher」という本を出版し、福岡市教育センターの図書室に「風土会コーナー」もできました。重枝先生は各学校の校内研修の講師としてひっぱりだこです。私(柴田)も時々、講師に出かけています。今後、この「風土会」に参加している先生方の中から、「風土会」の取組を福岡市や教育界に伝えていける「伝道師」が増えていくことを、密かに願っています。

それでは、今回の体験活動を実況報告します。

### ○エクササイズの説明

まず、4 人組をつくり、リーダーが重枝先生のところに集まり指示を聞きます。

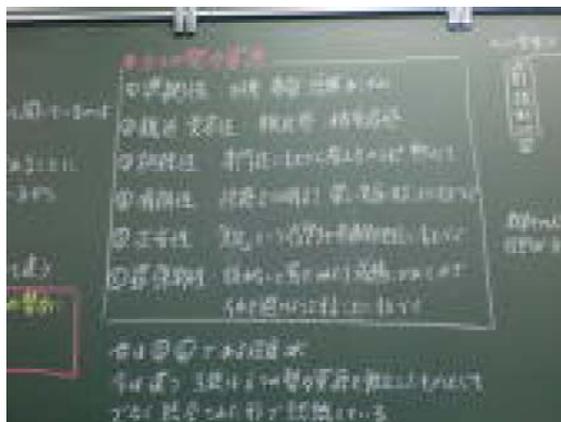
模造紙 1 枚と白紙の紙が 1 枚、図形の書いてあるシート 1 枚がリーダーに配られます。

4 人組の内、2 人が模造紙でついたてをつくります。

残りの 2 人のペアが、ついたてを境に向き合います。

1 人は白紙の紙を、1 人は図形の書いてあるシートを受け取ります。白紙の紙を持った人が「傾聴」し、図形の書いてあるシートを持っている人が、その図形を言葉で伝えます。模造紙がついたてになっているので、お互いの表情も見えないし、様子もわかりません。模造紙でついたてをつくらせている 2 人は観察者です。ペアのやりとりを見守りません。表情を変えたり、口をはさんではいけません。ただ、ペアのやりとりを見守ります。

白紙の紙を持った人は、傾聴しながら図形を再現します。



## ○伝えるって難しい！！

私は、図形を伝える役割で参加しました。まずは、紙を縦向きにするのか横向きにするのかから伝えます。そして、だいたい何cmくらいかを考えながら、図形を伝えていきます。相手の表情がわからないので、伝わっているのかどうか心配になります。途中で「何かわからないところはないですか？」などと問いかけながら進めていきますが、一生懸命伝えながらも、相手に伝わっているという実感がもてません。ただ、相手の方が必死に聞いてくれていることは伝わってきて、それに応えたいという気持ちで、できるだけわかりやすく伝えたいと必死でした。しかし、模造紙でさえぎられて相手が見えないと、こんなにも伝わらないのだと実感！！伝えたいけれどうまく伝えられないもどかしさで、ストレスいっぱいになりました。



## ○体験活動から気づいたこと

重枝先生の「はい、そこまで」という合図でゲームオーバーです。「それでは、お互いに何に気づいたかを話し合ってください。教師として何に気づいたかを、いろいろなことに関連させて話し合しましょう」重枝先生から指示が出ます。

まず、観察者をしてくれた先生が気づいたことを話されました。「観察していると、2人とも一生懸命に伝えたり聞いたりしているのに、図形はまったく違ったものになっていて、そのズレが見ていてもどかしく、残念でした。伝える方もかなり細やかに伝えていて、何cmくらいとか具体的に伝えているのに、それでもうまく伝わらないものなんだなあと考えさせられました。これが授業だとしたら、教師は子どもがわかっているつもりになってどんどん進めて、でも本当は生徒にはほとんど伝わっていないということがあるんだろうなあとと思うと、自分の授業におきかえるとドキッとします」

続いて、私も自分の気づきを伝えました。「説明していて、伝わっているのかどんどん不安になってきて、思わず、何か聞きたいことはないですか？と問いかけました。そしたら、返事が返ってきて、やっとちょっとホッとしました。やっぱり、相手の反応を見ながらとか、相手に問いかけながら進めていくことがこんなに大事なんだと実感しました」「深いですね～」という反応が返ってきました。そこで、重枝先生から声がかかります。

「それでは、今、話し合ったことをリーダーが発表して下さい」



## ○体験活動から気づいたことの交流発表

各グループから、さまざまな気づきが発表されました。その発表を聞きながら、なるほどと感心したり共感したりと、自分の考えも深まります。このような、お互いの考えを聞き合い交流する時間は、普段の授業の中でも子どもにとって、深い学びの時間になります。

「イライラしてキレそうになりました。結局、何も理解しないで終わってしまいました」

「まず、このゲームのルールがどうなっているのか、コミュニケーションをどんな風にとればいいのか、そこからわかりませんでした」

「自分がわかっていることを言葉にして伝えることの難しさを実感しました」

「わからないところが聞けないと、すごくフラストレーションがたまるのがわかりました」

「相手の伝え方が悪いとイライラするので、授業でも、教師の教え方が悪いと子どもがイライラするんだと、子どもの気持ちがわかりました」  
「具体的に書く場所を言ってもらったので、わかりやすかったです」  
「確認があったので、書きやすかったです」



## ○重枝先生からのフィードバック

各グループの発表を聞きながら、重枝先生がポイントをおさえていきます。もし、これが授業だったら、子どもはどんな気持ちなのか。子どもがわかる授業にするために、教師はどんな工夫をすればよいのか、そのような視点でまとめていきます。

まず、教師がいくら自分の説明はわかりやすいと思っても、実際に子どもに伝わっていないければ、それはよい授業とはいえないということです。教師が一方向的に説明していても相手はできていないことがあるのです。それは、このエクササイズで痛いほど実感できました。

例えば最初に、全体の図のイメージを説明すると、相手は見通しをもつことができます。授業であれば、それが「導入」であり、「めあて」であり、「目標を共有」することにつながります。

そして、段階的に確認しながら進めていくことが大切です。相手の成果を認めながら進めることで、双方向的なかわりができ、細やかなコミュニケーションがとれます。さらに、相手との関係性も重要です。つまり、子どもとの人間関係です。相槌を打ったり、承認したり、相手がうれしくなるような話し方をするすることで、伝わり方が変わってきます。教師の伝え方、話し方、言い方も、相手に伝わるための大きなポイントになるのです。

このように、物事を閉じて考えるのではなく、さまざまに関連付けて考えることができるようになれば、教師の力量は高まります。教師には常に、自己研鑽が求められるのです。

また、図形の大きさの目安にするための目盛りをつけたり、「1 cm内側に」というような具体的な表現をすると、伝わりやすくなります。このように、どんな風に伝えたらよいのかを考えたり工夫することが「教材研究」です。子どもの気持ちがわかる教師は、自ずと成長します。「学ぶ教師」に変わっていきます。その視点をもつためにも、今回のエクササイズは大きな気づきと刺激を与えてくれました。

お互いの気付きを交流した後に、もう一度、ペアを変えてエクササイズに挑戦しました。

今度はもちろん、①見通しをもって、目標を共有して

- ②段階的に確認し
- ③アサーティブな態度で
- ④成果を確認しながら
- ⑤具体的な表現で
- ⑥双方向で「合意」しながら

進めました。

時間が短かったので、完成はできませんでしたが

(できたペアもあったようですが)

1回目よりは、なごやかによい雰囲気でもエクササイズを進めることができました。

そのことが単純に嬉しかった！！

わかる喜びを、子どもと共有したい！！

そんな「授業」をしたいと心から思いました。



☆ 今回の学習会のキーワード ☆

○教師の勢力資源

生徒たちは教師に何らかの勢力を感じていて、実はその勢力に従っている

○6つの勢力資源

準拠性，親近・受容性，熟練性，明朗性，正当性，罰・強制性



♪学習会に参加された先生方の感想♪ (参加人数 27名)

- ・初めて参加させていただきました。「教師の勢力資源」ということでしたが、自分は反省すべき点ばかりで、短絡的で学ばない教師になっていることに気づかされました。今、自分のすべきことが見えてきたような気がします。ありがとうございました。もう若さもなくて、年齢だけを重ねてしまったのですが、始めるのは「今」しかない。自分を見つめ直す時期だと思え立つことができました。
- ・教師の力量不足で生徒が理解できていないものを、すべて生徒の理解力がないからと生徒のせいにして、あきらめていたところがありました。改めて、わからないから生徒であって、そういう生徒がいるから我々教師がいるのだということを考えることができました。
- ・初めて学習会に参加させていただきました。とても内容が濃く、ついていくのがやっとでしたが充実した時間となりました。ありがとうございました。  
今日の実習2回目で、①目標を共有し②段階的に確認し③アサーティブな態度で④成果を確認しながら・・・進めても、なかなかうまく描くことができませんでした。フラストレーションや不安がたまっていくのを感じ、「合意」しながら進んでいくことの大切さを考えることができました。
- ・図形のエクササイズは、以前に行ったことがあるものですが、重枝先生の講義を聞いた後で行うと、見方が変わり、自分の授業の仕方に置き換えて振り返ると、新しい発見もあり、とても参考になりました。同じエクササイズでも、視点を変え、新しい知識と関連付け、あるいは物事の関係性を置き換える事で、新たに学ぶことがあるなど、小さな感動がありました。センターの図書室の風土会コーナーの資料は、その展示の仕方も含めてすばらしい財産ですね。貸し出し可能とのことでしたので、使わせていただきたいと思います。
- ・コンセンサス実習では、わかりやすく伝えることの大切さを感じました。さらに、相手とコミュニケーションをとろうと言葉を発することのハードルを感じました。教師の勢力の中でも、子どもと相互にコミュニケーションがとれるようにしておかなければならないと思います。そして、教師も高まらないといけない・・・教師と子どものコラボレーションだと思いました。
- ・楽しく参加させていただく中で、生徒の思いを少し感じるような気がします。自分で「わかるはず」って思い込んでいることが多い。相手には伝わっていないんだということがわかったような気がしました。今日の授業を振り返ってみると、自分に足りないところがいっぱいあると思いました。
- ・活動することを通して、テーマを実感することができるのが、いつも喜びです。基本的で、教師として大切なことは、つつい日常の中では見落としがちになります。重枝先生の視点は、大切なことであるにもかかわらずいつも見落とししている点を、理論的かつ実践的にすすめられ、発見があることがとても楽しみです。
- ・重枝先生の人柄がよくわかり、楽しい学習会でした。また、それについていきたいと頑張っている若い先生たちの姿がうらやましく感じられました。また参加させてもらいたいと思います。